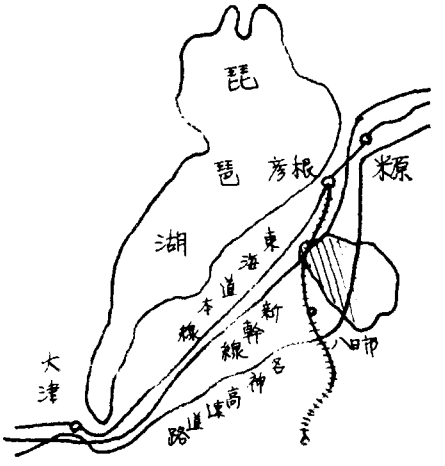
二次産業の就業先となっていることがわかった。ところで，これらの工場の通勤圏は，一般にかなり狭い。つまり，通勤時間の削減によって生じた時間だけで農業が成り立っているのである。このような農業経営の合理化は，特に農業用水系統の整備によるところが大きい。すなわち，愛知郡は，かってその地形条件に制約されて河川の利用率が低く，水不足に悩まされていたのだが，永源寺ダムの完成によって用水不足の心配からは解放されたのである。しかし，農業用水を巡る厳しい水利慣行の存在は，この地方に旧態依然とした面を残したと考えられた。すなわち，祭祀とその背景にある制度は，このような風土の中で培われ，存続してきたものと思われた。



このように，愛知郡は，農業の面で著しい変化を遂げ，合理的な側面を持ちながら，一方では，過去における慣習の継承にみられるように，旧に側面を合わせ持った地域であるといえる。

鈴鹿市白子地区を中心とする型紙産業に関する地理学的考察

山　川　敦　子

本論文は，三重県の中北部鈴鹿市の，南東部に位置する白子地区をその対象地域とし，古い歴史を持ち，全国生産高の大半を占めるといわれる当地域の型紙産業を調査することにより，この産業が，鈴鹿市および白子地区において，いかなる比重を有しているのかという点を考察し，かつ，東京及び京都における型紙産業との比較を，主たる目的としたものである。

白子地区は，近代工業都市として第二次世界大戦後発展をとげてきた鈴鹿市の中では，特殊な地区であると思われたため，まず，鈴鹿市の概観を把握した後に，白子地区に焦点をしぼってゆくことにした。そのための研究方法は，主として，三重大学教育学部の研究紀要，「日本地誌13」「三重県の地理」などの文献を参考にした。また，白子地区の型紙産業の概略をとらえるために，型地紙製造業者・彫刻業者・染型紙販売業者からの聞き取り調査と，三重県教育委員会の文化財緊急報告書に基づいて，考察を進めた。さらに，他地域における型紙産業との比較の項では，白子地区と同様，聞き取り調査により，その実態を把握した。

研究方法は以上のとおりであるが，さて，この考察結果は次のとおりである。

① 白子地区の型紙産業を鈴鹿市の産業に位置づけてみると，単に数字だけで結論すると工場数が7.8%，工場従業者が3.7%，製造品出荷額等が2.3%ときわめて小さい数値を示している。これは，大量生産不可能，後継者不足，単純長時間労働などが原因していると思われる。そして，この数値は

年々低下の傾向がみられる。

② しかし，だからといって，型紙産業が斜陽産業であるとは決して言えない。というのは，①で示したように，白子地区の型紙産業の，鈴鹿市に占める割合は非常に小さいが，当地域で生産される型紙は全国生産量の9割以上を占めているため，型紙産業は白子地区では，住民意識の面でも，かなり大きな割合を占めているものである。

③ 型紙産業の従業者の分布には集中性が見られる。これは，手工技術への依存度が高く，多種少量生産であるためであろう。

④ 東京および京都における型紙産業との比較を行なうと，共通点はⅰ）型地紙の購入，ⅱ）当面する問題点などがあげられる。相違点はⅰ）分布状態，ⅱ）販路，ⅲ）問題点解消のための対策などを数えることができる。ここでおもしろいことは，問題点解消のための対策は，東京・京都ではあまり力を入れて行なわれておらず，これに対して，伊勢型紙の場合には，国・県・市からの助成金が支給されている。ここに，政治色らしきものがあらわれており，同時に，三重県では型紙産業が，他府県におけるより，重視されていることが解る。

⑤ 最近，白子地区から他地域例えば，東京，京都への関係者の流出が顕著である。これは白子地区においては，販売業者と彫刻業者との間の専属的関係に帰着するのだろう。

以上のように結論したが，この結論により，型紙産業の関係者がより良い方向への改善を試みられるように，その提示ともなればよいと思う。